



【完全版】Android デバイス管理必携！

Android Enterprise を徹底解剖！

Contents

目次

- 01** Android Enterprise概要
- 02** LANSCOPE エンドポイントマネージャー クラウド版とAndroid Enterprise

chapter

01. Android Enterprise概要

MDMツール

デバイス情報（ハード・アプリ）の取得

位置情報の取得

リモートロック・ワイプ

セキュリティポリシーの設定

メッセージ・アンケートの通知

+

Googleのプログラム

Android Enterprise (AE)

- ✓ MDMと組み合わせて利用する必要がある
- ✓ Android Enterpriseの利用が必須のMDMが多い
- ✓ 利用は無償だが、事前準備や利用条件があり、注意が必要

MDMツールとAEを組み合わせて利用することで、より高度なデバイス管理を実現できます。
尚、MDMツールによってはAEの利用を必須としているケースもあります（LANSCOPEはAndroid15以上のデバイスで必須）。

なぜ、Android Enterpriseの利用が必須なのか？

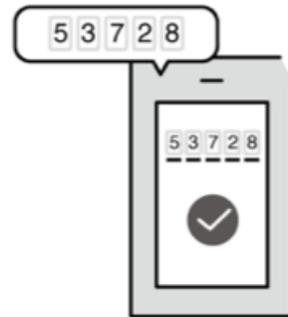
Androidの仕様変更により、これまで利用できていた機能が Android Enterpriseが無いと利用できないという現状

■ Android Enterprise無いと利用できない主な機能

シリアルNo / IMEIなど
デバイス情報の取得



パスワードポリシー
の適用



設定されている
パスワードの遠隔再設定



リモートワイプ
(デバイス初期化)



MDMの基本機能がAndroid Enterpriseの利用が無いと使えない状況。このことからAEは利用必須となっている傾向

chapter

02.

LANSCOPE エンドポイントマネージャー クラウド版と Android Enterprise

Full Device Managementとキオスクモードの2種類から選択し、デバイスを管理下に置きます

AEの利用は無料ですが、事前に利用申請が必要です。

Full Device Management

エンドポイントマネージャーで許可した範囲で、スマホ・タブレット本来の機能を利用してもらいつつ、アプリ管理やセキュリティ対策を実現できます。



許可したアプリのみ
Playストアに表示

キオスクモード

特定のアプリ以外利用できないようにする（Playストア等、設定アプリ、ホームボタンなども利用不可）など、デバイスの用途を限定できます。



飲食店の注文用タブレットなど
用途がごく限られる場合に利用

Android Enterprise機能一覧

No	機能	
1	パスワード再設定	デバイスに別のパスワードを上書きで設定できます。
2	パスワードポリシー	桁数や有効期限など設定するパスワードのルールを設定できます。
3	紛失モード	ロック解除の禁止、位置情報の強制取得を実行できます。
4	リモート再起動	遠隔でデバイスの再起動を実行できます。
5	物理的な外部メディアの利用禁止	SDカードなど物理的な外部メディアの利用を禁止できます。
6	USB接続禁止	ストレージとしての接続やデータ転送を禁止できます。
7	NFCによるデータ転送禁止	NFCによるデータの転送を禁止できます。
8	Bluetooth機器の接続禁止	Bluetooth機器の接続を禁止できます。
9	デバイスの初期化禁止	デバイスの初期化を禁止できます。
10	日付・時刻の変更禁止	日付や時刻の変更を禁止できます。
11	デバッグ機能・セーフブート利用禁止	デバッグ機能・セーフブートの利用を禁止できます。
12	位置情報設定の有効化	ポリシー適用時に位置情報モードを有効にできます。
13	充電中のスリープモードの無効化	充電中に画面がスリープ状態にならないように設定できます。
14	カメラの利用禁止	カメラの利用を禁止できます。
15	スクリーンショットの取得禁止	スクリーンショットの取得を禁止できます。
16	マルチユーザーの利用禁止	ユーザーアカウントの複数作成や切り替えを禁止できます。
17	アカウント管理の変更禁止	Googleアカウントの追加などアカウントの変更を禁止できます。
18	ネットワークの選択禁止	Wi-Fiネットワークの選択を禁止できます。

19	Wi-Fi設定	Wi-FiのSSIDやパスワードなどをデバイスに設定できます。
20	OS アップデートの制御	30日間 OS のアップデートを禁止するなどの設定ができます。
21	アプリ配信	アプリを指定して、デバイスへインストールができます。
22	Play ストア管理	Play ストアに表示するアプリを設定できます。
23	アプリ権限設定	アプリを利用するための権限などを設定できます。
24	アプリの自動更新設定	Play ストアアプリの自動更新を設定できます。
25	提供元不明アプリのインストール禁止	Playストアを経由しないアプリのインストールを禁止できます。
26	キオスクモード	特定アプリ以外利用できないようにするなど利用を限定できます。



キオスクモードは、Android Enterprise の機能の一つです。キオスクモードの設定を有効にしない場合は、Full Device Management として管理できます。

Android Enterprise利用の流れ

Android Enterprise を利用する場合、Google 社のポータルより、利用申請を行う必要があります。過去に Android Enterprise の申請に利用した Google アカウントでの再申請はできません。

<Android Enterprise利用の流れ>

Step1 ポータルにサインアップ



エンドポイントマネージャー クラウド版の管理コンソールより、Google社のポータルにアクセスし、用意した Google アカウントでサインアップします。

Step2 必要情報の入力



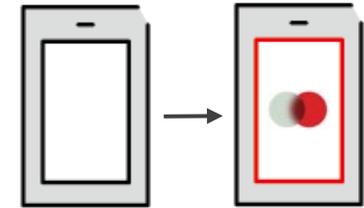
企業/組織名や連絡先情報を入力し、登録を行い完了です。

Step3 ポリシーの設定



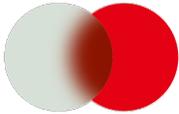
エンドポイントマネージャー クラウド版の管理コンソール上でポリシーの設定を行います。

Step4 ポリシーの設定



デバイスの電源を入れて、アクティベーション作業を行います。その後、管理に必要な設定をデバイス上で行います。

デバイス管理に必要なプログラム

必要なプログラム	概要	配信・インストール方法
DPC アプリ 【必須】 	Android Enterprise で提供する機能を利用するためのアプリです。	Android Enterprise のデバイス登録の手順でインストールが完了します。
LANSCOPE Client (アプリ) 【必須】 	位置情報や操作ログ、資産情報の取得など、エンドポイントマネージャーが独自に提供する機能を利用するためのアプリです。	Android Enterprise のデバイス登録の手順でインストールが完了しますが、別途エンドポイントマネージャーのサーバーへの登録作業が手動が必要です。



DPC アプリ・LANSCOPE Client とともに、デバイスのアクティベーションの過程でインストールが行われます。そのため、**利用中のデバイスで Android Enterprise を利用する場合、デバイスを初期化し再度アクティベーション**を行う必要があります。

デバイス登録方法 ※AEで利用できる機能は、どちらの登録方法を利用しても同じです。

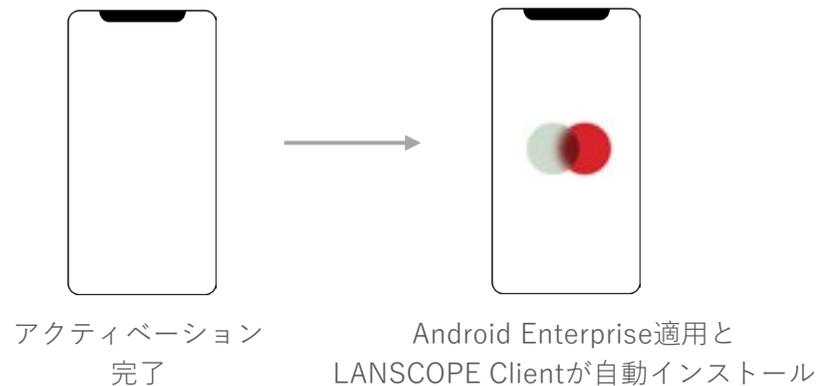
QRコードを利用する

Android Enterpriseへの適用・LANSCOPE Client（アプリ）をインストールするためのQRコードを読み取ります。



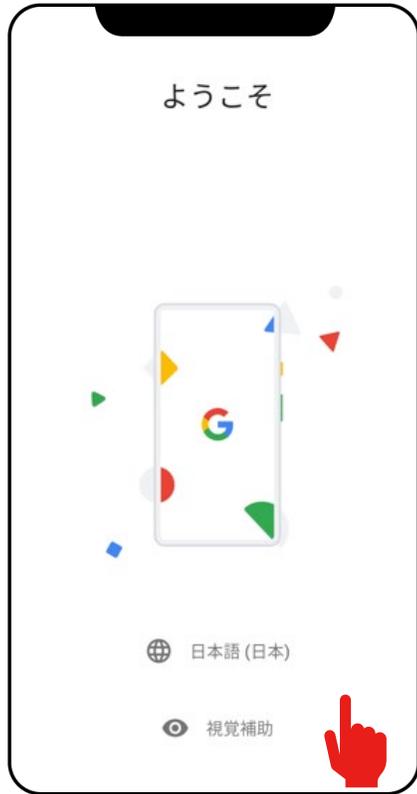
ゼロタッチ登録を利用する

事前設定を行い、デバイスをアクティベーションします。アクティベーションの過程で、自動的にAndroid Enterpriseへの適用とLANSCOPE Clientがインストールされます。

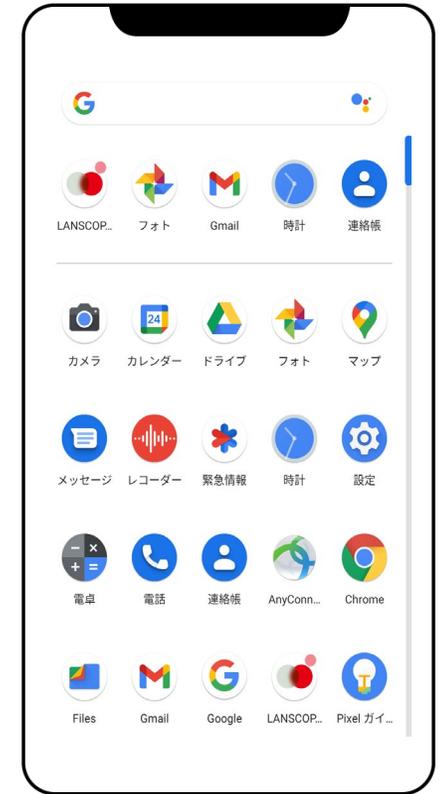
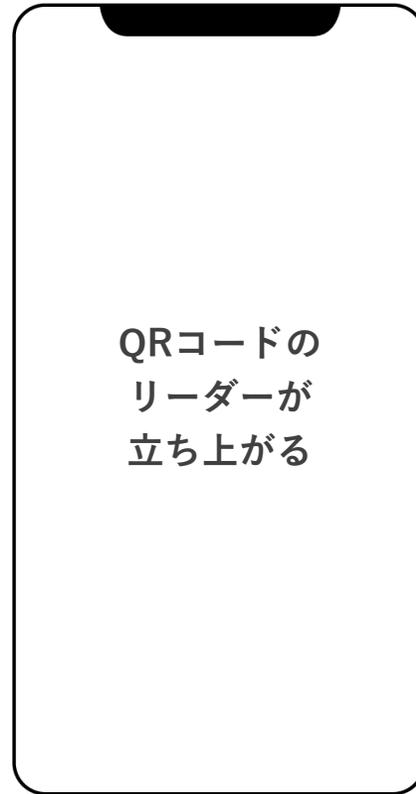


	QRコードを利用する	ゼロタッチ登録
事前準備	少ない	多い
アンインストール防止	可能。但し初期化された場合は、エンドポイントマネージャーの管理下から外れ、デバイスが利用できる。	可能。初期化された場合でも、再アクティベーション後、必要な設定を行い、エンドポイントマネージャーの管理下に入った状態でないとデバイスが利用できない。
利用条件	特になし	<ul style="list-style-type: none"> Android 8.0以降でゼロタッチ登録をデバイスの購入元に申請して購入したデバイス。 購入したデバイスの情報をゼロタッチ登録を利用するためのゼロタッチポータルに事前に登録する必要がある。 エンドポイントマネージャーとポータルサイトを連携する登録コードの有効期限が30日のため、期限前に更新が必要。
デバイス側の操作	デバイスの電源ボタンを押下後、「こんにちは」の画面を6回以上タップし、QRコードを起動。コンソールのQRコードを読み取り、アクティベーションします。	電源ボタンを押下後、初期設定を進めてアクティベーションを完了します。

QRコードを利用したデバイス登録のイメージ



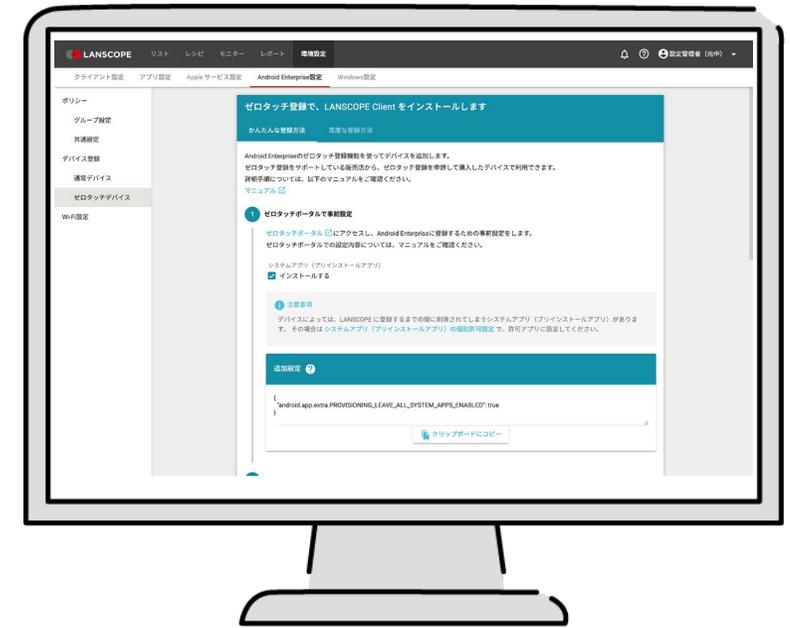
画面を6回以上
タップする



エージェントの
インストール完了

※ 別途、LANSCOPE Clientの登録作業が必要です。

ゼロタッチ登録を利用したデバイス登録のイメージ



② ゼロタッチポータルに、管理下に置くデバイス
に設定情報を付与する

③ デバイスのアクティベーション後、当該デバ
イスを管理コンソールより確認できます※

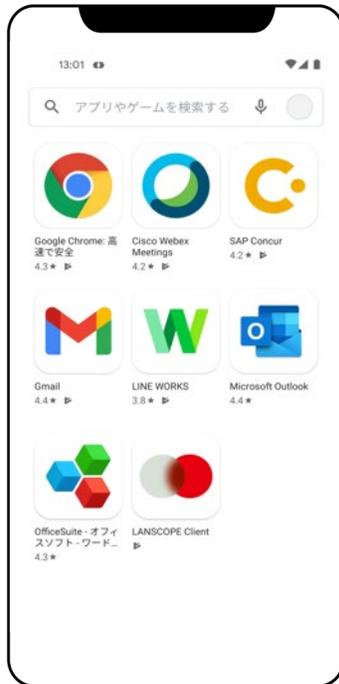


ゼロタッチ登録を利用する場合、デバイス購入元より「ゼロタッチデバイス」としてデバイスを購入する必要があります。
またデバイス購入元が、ゼロタッチ登録の認定をGoogle社より受ける必要があります。

業務に必要なアプリのみ利用できるようにするなどPlayストアをカスタマイズ

Android EnterpriseのFull Device Managementを利用する必要があります。

ホワイトリスト



許可したアプリのみ Play ストアに表示する

ブラックリスト (“見た目”は通常の Play ストア)



不許可のアプリは Play ストアに表示しない

 設定できるアプリは、Playストア掲載のアプリです。自社開発アプリをPlayストアに表示できますが、注意事項があります。詳細はお問い合わせください。また Android Enterpriseの仕様上、Google Play ストアで課金が必要な有償アプリの管理はできません。

アプリの設定方法 (Full Device Management)

Step1 アプリ管理の方式を選択



アプリの許可設定 ?

- 「利用するアプリ」のみ許可する
Playストアには、設定したアプリのみ表示されます。
 - 「禁止するアプリ」のみ禁止する
Playストアには、設定したアプリ以外が表示されます。
- 利用するアプリを設定する (ホワイトリスト形式)

ホワイト or ブラックリスト方式
いずれかを設定

Step2 許可/禁止するアプリを検索し追加



PlayストアのUIからアプリを
検索し、Click操作で選択・追加

Step3 アプリのインストール方式を設定 ※ 許可するアプリの場合



インストール方法の変更

- 手動インストール
デバイスの利用者が、Playストアからアプリをインストールできるようにします。
- 強制インストール
アプリは自動的にデバイスにインストールされ、利用者はアプリをアンインストールできません。
- プリインストール
アプリは自動的にデバイスにインストールされ、利用者はアプリをアンインストールできません。

手動インストールはPlayストアに表示するのみ、
強制/プリインストールはインストールまで実行

アプリ管理（キオスクモード）

特定のアプリ以外利用できないようにする（Play ストア等、設定アプリ、ホームボタンなども利用不可）など、デバイスの用途を限定できます。設定アプリの利用を禁止、ホームボタン無効化、電源ボタンのメニュー非表示とするなど、高度なデバイスの制限が可能です。

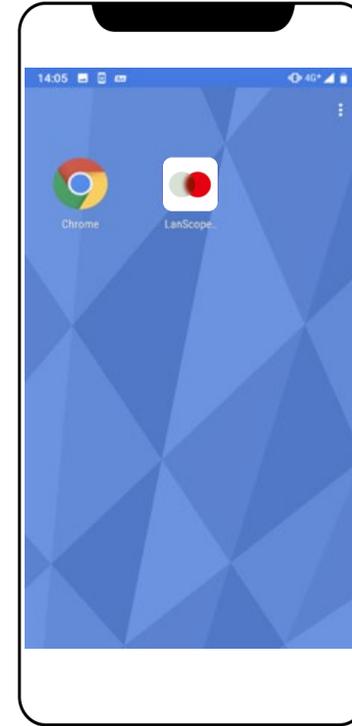
キオスクモードは、アプリ・Webアプリ・カスタムランチャーモードの3種類より選択します。



アプリ・Web アプリモード

指定したアプリ（またはWebサイト）1つのみが、デバイス起動時に全画面に表示されます。

※ LANSCOPE Clientを指定した場合の画面です。



カスタムランチャーモード

指定した複数のアプリをホーム画面上に表示できます。

※ 指定できるアプリはPlay ストアアプリ、または自社開発アプリのみです。「電話」等のアプリは指定できません。

Appendix

PC・スマホ・タブレットの一元管理をクラウドで実現

「使いやすい」管理コンソールで、充実の「IT資産管理機能」と「MDM機能」を実装

IT review 顧客評価No.1※1

使いやすい管理コンソールと
AIアシスタント※2による活用支援

充実のPC管理

操作ログ・セキュリティ
PC管理に必要な機能を網羅

充実のモバイル管理

AppleとGoogleのプログラムに
対応したiOS・Android管理



※1 IT資産管理、ログ管理、MDM・EMM、統合運用管理の4部門でLeaderを獲得。

※2 LANSCOPE Copilot for エンドポイントマネージャー。2025年3月時点ではベータ版として提供。

60日間無料で体験できます！

体験版を利用したお客様の7割が製品版をご導入いただいています



Android Enterpriseとの連携設定も含め、製品版へのデータ引き継ぎが可能です！

エンドポイントマネージャークラウド版の体験版は60日間利用できます。十分に機能を検証していただき、ご検討ください。

また、Android Enterpriseとの連携設定を含め、そのまま製品版へのデータ引き継ぎが可能です。

体験版利用中も、弊社サポートセンターにお電話やメール、チャットで問い合わせが可能です。

マニュアルやオンラインで学べるトレーニング動画も公開しています。

MOTEX

本資料に関するお問い合わせ

■ 営業本部

大阪本社	06-6308-8980
東京本部	03-3455-1811
名古屋支店	052-253-7346
九州営業所	092-419-2390

E-mail	sales@motex.co.jp
--------	--

ご導入後の製品利用に関するお問い合わせ

サポートセンター	0120-968-995（携帯・PHSからは06-6308-8981）
お電話受付時間	9:30～12:00/13:00～17:30（平日、祝祭日除く）
E-mail お問い合わせ	support@motex.co.jp

- ・記載の会社名および製品名・サービス名は、各社の商標または登録商標です。
- ・製品の仕様・サービスの内容は予告なく変更させていただく場合があります。
- ・MOTEX はエムオーテックス株式会社の略称です。